



青山義明  
自民党市議員

### 通学路の交通安全対策 について

**問** 近年、通学路において児童生徒を巻き込む痛ましい事故が起きているが、危険箇所の数と対策を伺う。

**答** 危険箇所は小中学校から97件の報告がある。また、蒲郡市通学路交通安全プログラムを策定し、交通安全プログラム推進室も加わり関係機関と連携し、対策を進めていく。

**問** 各学校からの要望内容と実施予算を伺う。

**答** 要望は歩道の設置及び拡幅が多く、予算は重点配分対象事業のため、補助率55%の国の交付金も活用して実施していく。

### 子ども会について

**問** 現状と問題を伺う。  
**答** 子ども会は地域の



コミュニティの活発化につながり、異年齢の子ども同士だけでなく、友達との親や地域のお年寄りとも交流やふれあいが生まれる場となっている。加入率は平成4年度94%、令和4年度50%である。加入率の低下が問題で、子供の趣味や習い事などの生活環境の多様化、及び共働き世帯の増加や少子化などの役員のなり手不足が原因。

**問** 今後の展開を伺う。

**答** 小学6年生から大学生まで24人が所属するジュニアリーダーが子供たちの見本となり、組織の理想像となる機会をとらえ、両者の連携をサポートしていく。



柴田安彦  
無党派

### 市営住宅について

**問** 現在の入居状況は、現在の管理戸数は、政策空家64戸を含めて364戸であり、入居戸数は265戸で全体の入居率は73%である。

**問** 入居希望の低下をどう分析しているか。

**答** 住宅の老朽化による居住環境の魅力の低下と、エレベーターがないため上層階の部屋が不人気になっている。

**問** 募集状況がリアルタイムで分かるよう、空き状況をホームページに掲載してはどうか。

**答** 随時募集の部屋は、現在は窓口のみで周知を行っているが、今後はホームページにも掲載し、周知していく。

**問** 国土交通省から、保証人の確保が困難であることを理由に入居できない事態が生じな

いよう通知があった。条例から保証人規定を削除すべきではないか。

**答** 高齢化や単身世帯の増加により、今後、保証人制度が市営住宅に入居できない原因となる可能性も認識している。廃止した自治体の状況等を研究し、適切に対応していきたい。

**問** 買い物など、歩いて生活できる環境が見込める地域への移設を考えるべきではないか。

**答** 現在、新たな市営住宅を整備する計画はないが、新たな市営住宅の建設計画を検討する際には、立地場所の利便性も重要な検討事項になってくると考えている。



市営住宅



竹内滋泰  
市政クラブ

### 令和5年度の予算編成 について

**問** 5年度予算編成の基本的な考え方を伺う。

**答** 市長就任1期目の最終年度となる。これまで蒲郡市民憲章を原点として施策を展開し、特に「子どもファースト」として、教育環境、子育て支援の充実に力を入れてきた。

4年度は「アフターコロナを見据えた未来投資型予算」と名付け、未来投資をスタートし、次年度以降さらに進めていく。

また、サーキュラリティを進め、脱炭素社会の実現に向けたGX、行政のデジタル化等によるDX等に取り組んでいきたい。

**問** 病院事業会計について、4年度の決算見込みを伺う。  
**答** 経常損益は、補助

金収入額が不確定要素として大きいものがあり、現状明確でないが、黒字決算を維持できると見込んでいる。

**問** 病院事業の5年度予算編成での、特に投資に対する考え方は。

**答** 新棟建設及び既存不適格改修工事に関する予算を計上予定である。

新棟建設等の進捗状況については、設計業務の事業者選定に係る公募型プロポーザルを4年10月に行い、11月に契約を締結した。既存不適格の改修工事は、7年度の新棟建設完了時までに終える必要があるため、5年度から順次進めていく。



市民病院